

授業概要

この講義では戦後日本の歴史を「経済」の側面から概観する。戦後復興と高度成長を中心テーマとし、具体的には、①アメリカ主導で遂行された戦後改革の過程と意義、②日本政府独自の経済復興政策（傾斜生産方式）、③高度成長の過程と要因（設備投資、技術導入・技術革新、政府の役割、所得増と大衆消費市場の成立、良質な労働力の確保、国際貿易）、④オイルショック、円高、貿易摩擦への日本の対応など、いくつかのサブテーマを通じて、戦後日本経済の復興・成長過程を解説する。

授業計画

第1回	オリエンテーション（講義内容、講義方法、評価方法、参考文献など）
第2回	アメリカの対日占領管理方式の特徴
第3回	戦後経済改革Ⅰ 農地改革
第4回	戦後経済改革Ⅱ 労働改革
第5回	戦後経済改革Ⅲ 財閥解体
第6回	「傾斜生産方式」と戦後復興
第7回	財閥から企業集団へ
第8回	中間テスト
第9回	技術導入と技術革新
第10回	高度成長と設備投資
第11回	高度成長期の産業政策
第12回	所得増と大衆消費市場の成立
第13回	オイルショックと高度成長の終焉
第14回	バブルの発生と崩壊
第15回	日本経済のグローバル化
第16回	期末試験

到達目標

- 1、戦後改革の意義、影響を理解する。
- 2、日本の産業・企業が戦後混乱期から立ち直った歴史的経緯を理解する。
- 3、高度成長の背景・過程・意義を理解する。

履修上の注意

無断欠席、遅刻・早退、授業中の私語・スマホ操作は厳禁する。

予習・復習

- 1、指定された日本経済史の参考書は少なくとも一冊を通読することが望ましい。
- 2、授業後にプリントおよび講義ノートを読み返し、要点を整理し、理解を深めること。

評価方法

期末試験（40%）、中間テスト（30%）、授業態度（30%）を総合して評価する。

テキスト

テキストは特に使用しない。
講義内容に応じてプリントを配布し、参考書を指示する。